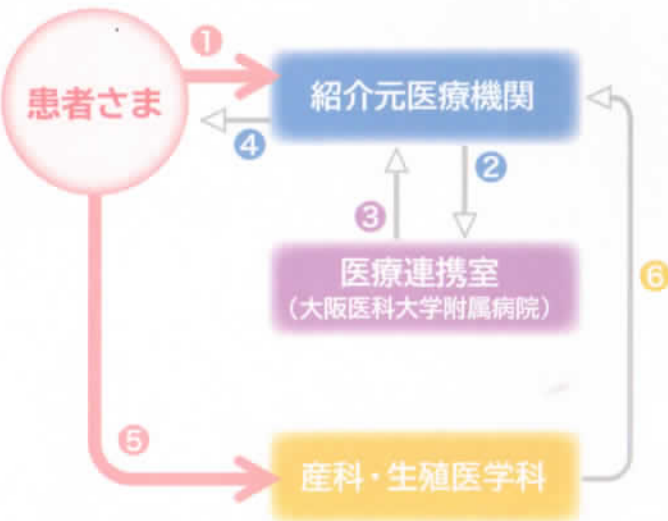


ベビードック お申し込みから実施の流れ



お申し込みから
ご予約まで

- 1 患者さまから主治医へ依頼
おかけの主治医に、「大阪医科大学附属病院でのベビードックを希望」とお申し出ください。患者さまから直接の予約は受け付けていませんので、医療機関に申込手続きをご依頼ください。
- 2 おかけの医療機関からお申し込み
医療機関からFAXで、『FAX紹介申込書』と、『診断情報提供書』をお送りいただきます。
- 3 受付確認票の送付
医療連携室にてご予約取得後、お申し込みいただいた医療機関へ『受付確認票』をFAXし予約日時等をお知らせします。

当日までに

- 4 おかけの医療機関から『受付確認票』、『診断情報提供書』をお受け取りください。

当日は

- 5 来院
当日は、必要な書類をご持参のうえ、産科・生殖医学科受付にご来院ください。
- 6 受診後、担当医から主治医の先生へ報告書を作成いたします。

交通のご案内



- JR京都線「高槻」駅下車南口より徒歩8分
- 阪急京都線「高槻市」駅下車1番出口すぐ
- お車での来院
国道171号線「八丁畷」交差点から府道79号へ入ってすぐ

ご予約について

おかけの医療機関さまから
医療連携室を通してご予約ください。

お問い合わせ先

広域医療連携センター 医療連携室

Tel.072-684-6338 (直通)

OMC 大阪医科大学附属病院

〒569-8686 大阪府高槻市大学町2番7号
TEL: 072-683-1221 (代表)

出生前(診断) ベビードック

| 出生前胎児精査外来 |

健やかに育つ命のために。

OMC 大阪医科大学附属病院
産科・生殖医学科



料金/保険適用外

初回	20,000円
2回目以降	10,000円

ご予約方法 完全予約制

ご希望の方は、今おかけの医療機関さまから医療連携室を通してご予約が必要です。個人での予約は受け付けておりません。かかりつけ医にご相談ください。

「出生前ベビードック」とは？

「出生前ベビードック」では胎児超音波の専門医が、本院独自の検査マニュアルを用いて、胎児の状態を詳細に診断します。

一言で言うならば、「胎児の精密検査」です。



妊婦さんに安心して お過ごしいただくために。

高齢出産の増加や出生前診断の話題がニュースや新聞で伝えられる中、「赤ちゃんが健常で元気に生まれてくるかが心配です」といった妊婦さんの声をよく聞きます。一方近年の胎児超音波診断機器の進歩により、赤ちゃんの異常を早期に診断できるようになりました。「出生前ベビードック」は、おなかの中の赤ちゃんに異常がないかを詳細にチェックします。そしてモニターに映る元気な赤ちゃんの姿を見て、妊婦さんに安心していただきたいという思いから開設しました。

3D・4Dカラー映像の最新超音波診断機器を導入。

「出生前ベビードック」では、最新の超音波診断機器を用い、胎児の専門医がおなかの赤ちゃんの状態をくまなく調べ、胎児のカラー3D・4D映像をご覧いただきながら、胎児の状態を分かりやすく説明します。もし万が一、赤ちゃんの異常が発見された場合には、本院胎児外来でさらに詳細な検査を行い、妊婦さんの精神ケアも含め、万全のサポートを実現いたします。



※赤ちゃんの位置によっては観察できない検査項目が存在する場合があること、検査が100%を保証するものではないこと、検査を行っても発見できない病気や異常が存在することはご了承ください。

♥「出生前ベビードック」受診について

「出生前ベビードック」は、妊娠12週以降のすべての妊婦さんが対象です。とくに下記の方にお勧めします。

- ・おなかの赤ちゃんに異常がないか心配な妊婦さん
- ・内科の病気がある妊婦さん・出産時35歳以上の妊婦さん
- ・胎児染色体異常が心配な妊婦さん

◎まずは「妊娠12～13週」にお受けください。

妊娠初期(12～13週)の受診をお勧めします。この時期のすべての胎児には、首の後ろにむくみがあり、Nuchal Translucency(NT)と呼ばれています。このNTが肥厚している場合、ダウン症などの胎児の染色体異常や、胎児の心臓の異常の可能性が少し上昇します。本院ではNTを正確に測定し、ダウン症などの胎児の染色体異常の確率計算をします。もし胎児の染色体異常の可能性が高い場合には、当院胎児外来でその後の対応(羊水検査など)について十分なカウンセリングを行いますので、ご安心ください。

◎「18～20週」

ダウン症などの胎児の染色体異常の検出率に限っては、妊娠中期より妊娠初期の方が高いといわれていますが、胎児の先天疾患が見つかる頻度はこの週数が最も高いです。したがってベビードックで胎児の精査をする上で、最も重要な週数と考えています。

◎「24～32週」

この週数では新生児の先天性心疾患の専門医である小児循環器科医師が、胎児心臓精密超音波検査(心臓ベビードック)を行います。胎児の心臓に異常がないかを詳しく診ます。

※上記に示した週数は目安ですので、これ以外の週数でもベビードックは可能です。詳細はお問い合わせください。

大阪医科大学附属病院 「周産期センター」のご案内

本院では「出生前ベビードック」のほかに、「周産期センター」を開設しています。

このセンターには「分娩部門」「新生児部門」「先天性心疾患部門」「小児外科部門」が置かれ、それぞれのスタッフが連携を保ちながら、質の高いチーム医療を行っています。

詳しくは病院ホームページをご覧ください

分娩部門

本院は、周産期母子医療センターとして、正常妊娠はできるだけ自然分娩を推奨し、帝王切開後の自然分娩などの特殊な症例も行っています。また妊娠高血圧症候群や多胎妊娠、さまざまな内科の病気を持った妊婦さんに対して、各専門科医と連携を保ちながら質の高い医療サービスを提供しています。緊急の母

新生児部門

体搬送は、年間100例程度の受け入れをしており、地域と密着した高度救急医療の一端を担っています。新生児集中管理室(NICU)が完備しており、対応可能な児は、妊娠23週以降で300g以上です。新生児年間平均入院数は、1,000g未満の超低出生体重児の管理をはじめ、約250例の実績があります。

先天性心疾患部門

年間100例以上の手術が行われ、すべての先天性心疾患の手術に対応します。近年では胎児超音波で診断される症例が増えています。

小児外科部門

臍帯ヘルニアや食道閉鎖などの消化器疾患をはじめ、様々な先天性疾患の外科手術に対応します。